概　要　報　告

実施期日	８月４日(金)
部　会　名	小学校　総則部会

神奈川県研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ

『校内研究における組織的な授業改善を通して』

提案概要

研究主題　　「考えることを楽しみ、学び続ける子ども」
サブテーマ　　～１年生から６年生までの学びのつながり～

提案者の勤務校の組織的な取組を、校内の研究を中心にどのような手立てでテーマに向かっていき学校のスタイルを作り上げたか、その過程についての提案であった。以下が主な取り組みである。

【学年からの提案リレー】
手立てを探る方法としてリレー方式を採用した。研究推進委員から手立てを提案するのではなく、先行授業での成果と課題を次の学年が受けて進めていく方法である。各学年の授業作りが他学年への研究授業へリレーされていき全校共通のスタイルが整っていった。
【子どものつぶやきに注目】
つぶやきからの児童の変容を見取る。表情や児童のうなずき等もつぶやきとして定義付けた。
【校内環境の統一】
校内全教室の掲示物が統一されることで、先生たちの指導方針が同じ方向を向き、児童が進級しても安心感を与えられた。
板書計画の統一。「めあては赤鉛筆、まとめは青鉛筆」とノートと板書の一体化を図り、どの学年もどの教科も基本形を統一した。
見方・考え方を働かせることにつながるクイズを作成し、他教科とのつながりが感じられるように、児童の目に留まる校内のいろいろな場所に掲示した。
【単元構想シートの活用】
相互間の関連を意識しながら単元相互・教科相互・学年相互を意識して進めてきた。学びの振り返りの４つの視点を設定し、見通しをもって学習の積み重ねを確認しながら行った。

質疑応答

Ｑ　提案リレーでの研究授業は、全職員が参観したのか。課題の改善案を次の学年が引き継いでいく様子をもう少し詳しく教えてほしい。
Ａ　月一の公開研究授業で行い、全職員で授業を見て共有していった。
研究授業を行った日のうちに、研究会を設けて、新鮮な意見交換が行うことができた。

Ｑ　振り返りの際、うまく表現できない（書けない）児童や低学年の児童への何か効果的な方法や工夫があったら教えてほしい。
Ａ 高学年から研究授業を行うことで、振り返りのやり方を先生たちが学び、下の学年を指導する際に参考になった。翌年には逆に１年生～６年生の順番に行うことで、発達段階の気付きが生まれた。

Ｑ　このような研究が実現できた学校体制はどのようであったか。また市全体で取り組んでいるのか。
Ａ　研究発表会に向けて先生たちの声を聞きながら進めてきた。学校によって児童の実態が違うので、学校の特色を生かして研究テーマを見つけていくのがいいと思う。

協議の柱及び協議概要

カリキュラム・マネジメントの観点で、各校の取り組んでいる主な活動、そしてその活動を通して苦労している点や、見えてきた成果や課題をグループで話し合った。協議会後２グループが発表を行い、提案者に再度聞いてみたい内容に関して質疑応答が行われた。

〈グループ①〉

カリキュラム・マネジメントを進める上で時間確保の難しさが話題になった。時間をどのように生み出しているのかを聞いてみたい。

⇒校内研究の時間を必ず確保して、それ以外の行事は入れないように行う。会議はICTを利用して時間を有効に使っていく。（小学校）

〈グループ②〉

各学校、市町村によって規模も実態も違う。学校全体でカリキュラム・マネジメントを考えていくことは難しいので、行政単位（町全体）と協力していくことが大切だと思う。新しいことが増えていくと負担感も大きいので、他者をうまく巻き込んでいく方法を知りたい。

⇒町全体で動いていることで、校長がリーダーシップを発揮し、取り組みやすくなった。余裕がないのは間違いない中、スクールサポートスタッフにお願いしたり、活動を見直したりしながら進めていった。他者を巻き込むことについては、共感できる教職員を増やしていくのがよいと思う。（中学校）

まとめ概要　**（指導・助言者より）**

カリキュラム・マネジメントは授業を改善する取り組みであり、各校が戦略的に取り組み、教育の質を高め、学習効果を最大化するためにある。そのために大切なのは学校教育目標を受けて、児童を育てたい資質能力の視点からカリキュラムを見直す必要が望まれている。見直す上ではしっかりとその目的を明確にすることで、育てたい児童像や身に付けさせたい資質能力を、教職員が共通理解をしなくてはならない。その際、教職員が連携する、学校教育を検証していく、地域と連携していく、この三つの点が大切であるが、これらをトップダウンのやり方ではなく、全教職員で話し合いながら進めていくことが重要である。成長した子どもの姿を見ることができることを喜びに、共有することで研究が進んでいく。

現在求められている探求的な学習はすべての教科で活用でき、資質能力を身に付ける有効な学習法である。今のうちから「なぜなのか」「どうしてそうなるのか」「どうしたらさらによくなるのか」を子どもと一緒に考えられる授業作りが大切である。子どもが受動的に学ぶのではなく、主体的に取り組む授業が求められる今の時代にカリキュラム・マネジメントの必要性が大きい。また学校だけで歩むのではなく、地域と共に歩む時代である。そのための人的・物的資源をカリキュラム・マネジメントの視点から考えていく必要がある。

「この学校だからできた」でなはく、教職員が育てたい子ども像を共有することがカリキュラム・マネジメントを進める上での重要なポイントと言える。カリキュラム・マネジメントを進めることで、学校教育目標達成、児童・地域の実態を把握して適した指導ができる、教職員の結びつきが強くなる、教職員の質が高くなるというメリットが期待される。